

## 令和7年度 5月校長会 教育長講話（要約）

### はじめに

4月の校長会では、年度初めということで、それぞれの学校において校長が明確なビジョンを示し、新たな学びの展開や学校の当たり前を変えていってほしい、といった話をさせていただきました。

本日は、新たな学びの展開として、「探究的な学び」をキーワードにして、話をさせていただきます。

### 子どもたちの学びの姿

先日、5月7日に一条高等学校の1年生が探究的な学びについて発表する時間がありました。発表したのは、4年前に開校した一条附属中学校の1期生の生徒たちであり、発表を聞いていたのは、今年度一条高等学校に入学した1年生の生徒たちです。



発表の内容としては、一条附属中学校1期生の生徒が中学3年生のときに取り組んだ「個人探究」についてです。一条附属中学校では、一人ひとりの生徒が、個別に探究テーマを設定し、それぞれの方法で課題解決に取り組んでいきます。

生徒一人ひとりが設定した探究テーマは様々ですが、ある生徒は「祖父母が暮らす地域の活性化」と題して探究活動に取り組んでいました。その生徒の発表を聞くと、「テーマを設定した動機」から始まり「地域の現状把握や情報収集」を行い、地域活性化のための提案に至るまでの内容となっていました。さらには、中学3年生の研修旅行の行先を個別に設定し、東京にある大学の先生にインタビューを行うなどして考察を深め、さらなる地域活性化のための提案を行っていました。

このような子どもの姿は、まさに探究的な学びの姿であると感じることができました。それぞれの学校で子どもたちの発達や実態に違いはあれど、自らが課題をもち、探究の方法を獲得し、課題解決に向かえる子どもたちを育てていってほしいと思います。

### 学び続ける姿勢

探究的な学びで大切なことは「問いを持ち続ける姿勢」であり、この姿勢は、子どもの知的好奇心から生まれるものであると感じます。子どもたちにその姿が見られるようになるのは、他でもない先生方の工夫と準備であり、先生方自身が「問い」を持ち続け、探



究する姿を見せることが大切です。

先日から今年度の初任者研修が、始まっています。これから奈良市の教育をになっていく先生たちには、学び続けることのできる先生になっていただきたいと思うとともに、校長先生方には、初任者に限らず、すべての先生方の学びを支える存在であっていただきたいと思えます。

前回は伝えたとおり、今、まさに「学校とは」「教育とは」という根源的な問いについて考える局面に立っています。先生方には、研修などをおして、その「問い」に向き合っていただきたい。そのためには教育委員会として何ができるかをしっかりと考えていきたいと考えています。

### 探究的な学びの研修

その一つとして、教育委員会では、「探究的な学び」を中心とした研修を計画しています。この「探究的な学び」を推進するためには、単発の研修で終わらせるのではなく、一定期間にわたる継続的な取り組みが不可欠だと考えています。

先生方は、日々の学級経営、授業改善、そして教育のあり方そのものについて、常に考えをめぐらし、様々な課題意識を持って個々の業務に取り組んでいることと思うが、そういった先生方の日々の「学び」をつなぎ、どのような成果につながっているのかを確認していく必要があるという考えのもと研修の設計をしています。

具体的には、今年度はスキルアップ研修の中に「オーダーメイド型教育実践研修」というものを設けています。

この研修は、先生方一人ひとりの「探究的な学び」を軸とし、各学校が抱える固有の課題やニーズに柔軟に対応できるように設計しており、受講される先生方が、教育課題を持ち寄り、共通のテーマに関心を持つ者同士で学校を越えたグループを形成し、探究的な研修を進めていく研修となっています。

研修の過程では、受講者の先生と担当の指導主事が共に研修講師の選定を検討したり、実際に学校で実践状況を共有し合ったりするなど、伴走型の支援を行います。

さらに、指導主事が各校へ直接伺う指導主事派遣についても、指導主事と教員がともに研究することで、授業改善の支援を行うことを目的に実施しています。

この「オーダーメイド型教育実践研修」や「指導主事派遣による研修」などが、先生方の課題解決の一助となり、ひいては各校の教育活動の更なる充実につながることを目指していきたいと考えています。

## おわりに

本日お話しした研修制度などを積極的にご活用いただくとともに、各校における校内研修の充実、そして何よりも、先生方自身が学び続けることの意義を理解し、探究的な視点を持って教育活動に取り組んでいってほしいと思います。

子どもたちの未来を育むという共通の目標に向け、教育委員会と各校が連携を一層強化し、共に語り合いながら、奈良市の教育を前進させていくことができるよう引き続きのご理解とご協力をお願いします。